

Data Box

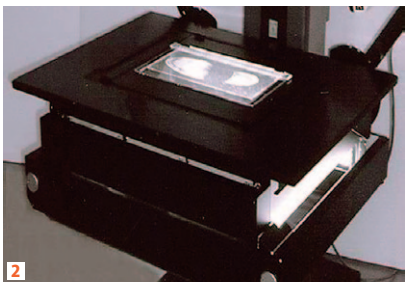
株式会社杉浦研究所

代表者 杉浦 静夫
所在地 〒158-0094 世田谷区玉川4-5-4
連絡先 TEL 03-3700-4405
URL http://www.sugiken.com/

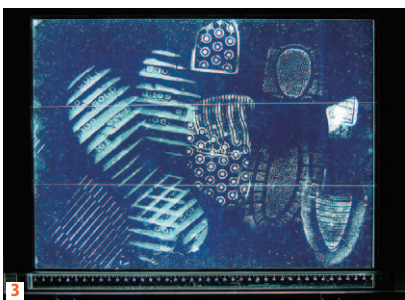


5

1. V型書籍撮影装置 DAV-3は、書籍のデジタルアーカイブ装置である。システム化された均一照明のもと、2台のデジタルカメラを使うことで、左右2ページ同時のワシヨット撮影（スキャン）が出来るという優れものだ。2. 足跡シートセッティング。3. 足跡シート写真。4. 足跡石膏写真。5. 本ビル



2



3



4

杉浦睦夫氏は、東京大学の宇治達郎氏、部下の深海正治氏らとともに、世界で初めて胃カメラを開発した。その技術は「内視鏡技術」、あるいは「ファイバースコープ」として発展し、各方面で広く使われている



互いを尊重することが必要である。この姿勢が、その後の糧となる製品の開発につながってきた。現在は、病理・解剖などの肉眼標本撮影、外科の摘出標本撮影に使われる接写撮影装置、ファイバー照明装置やマイクロスタジオなどを全国の大学医学部や光学メーカーに提供し、業界で信頼を得ている。

「最近では、会社は株主のも

のだとよく言われますが、そうじゃない。会社は切れば血が出る生き物です。従業員が楽しめる仕事と生活する手段を得る場、それが会社で、そのバランスを取るのが私の仕事です」静夫代表は熱く語る。

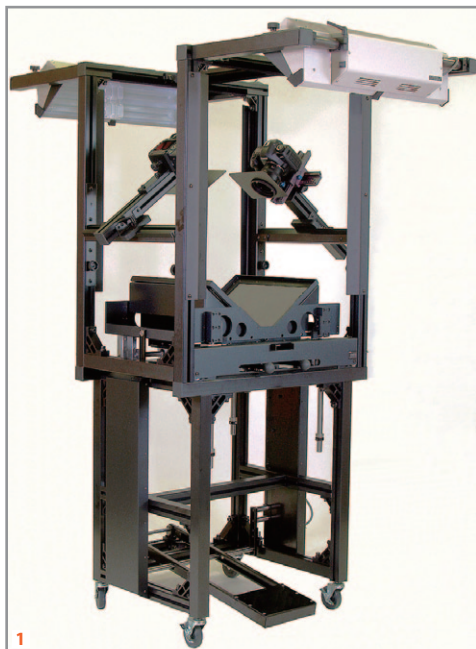
ニッチャーを超えた存在

今後、期待しているのが「書籍撮影装置（ブックスキャナー）」。

書籍をデジタルカメラで撮影し、データとして保管するシステムである。図書館、印刷会社、IT企業など、デジタルアーカイブを求めている企業のニーズを見込んでいる。あえてローテクにこだわった製品だという。

「大会社がやりたがらないものを徹底的にやる、当社はニッチャーでなく、ニッチャーです」と笑う静夫氏。ブシないその姿勢は、今後大きな可能性を生み出しそうである。

「わずか14mmの喉を通過させる管、その中に入れるカメラとフィルムとランプはどうするのか……幾多の失敗を乗り越え、手探りの研究は進む」。胃（ガストロ）カメラの開発を描いた吉村昭氏『光る壁画』の一節だ。ここで描かれたオリンパス株式会社で、胃カメラを開発した杉浦睦夫氏が設立した光学・医療機器の開発会社が株式会社杉浦研究所である。



1

株式会社杉浦研究所

10

胃カメラの発明者が設立した企業

昭和33年、睦夫氏は、オリンパス時代に知り合った学者や医者との要求を形にするため同社を創業した。光学の専門家であった同氏は、撮影の対象物についての広い知識を得るため、機械、物理、化学、電機など様々な分野の専門家に会い、同社に迎えた。さらながら梁山泊のような会社だったという。

しかし、いくら好きなものづくりでも、委託研究や一品製品は効率が悪く、経営が成り立たない。大企業のブランドで販売する製品の提供（OEM生産）や、長野に工場を

設置し、自社で製造から販売を行う「SILブランド」製品へと業務を拡大した。委託研究、一品生産、OEM、そして自社製品の四本柱で、バランスのとれた経営基盤が確立した。

経営陣と従業員のつながりが強み

同社の強みは「経営陣と従業員のチームワーク」にある。バブル崩壊後の厳しい中で後継した現代表の静夫氏は、経費削減を行いつつも、さらに研究開発費を増やすことで、新製品を開発する戦略をとった。先が見えないトライ＆エラーが続く開発では、経営陣と従業員が励まし合い、